

# わがくき

上条小学校 学校だより  
No. 297 (ウェブ版)

## 閉校記念式典あいさつ

校長 佐藤 彰

上条小学校は、130年間に数多くの卒業生を送り出しました。この間学校を取り巻く状況は決して平坦ではありませんでした。時代が変わり、校舎も変わりました。子どもたちは、それぞれの思い、希望をもってここで学び生活しました。卒業生は数々の思い出を胸に全国に羽ばたき、それぞれの地で精一杯努力し活躍しています。

上条小学校のよさは「みんな仲良く活動」することです。昼休みやその他の休み時間には体育館・グラウンド・若草の森などで全校の子どもたちが、元気良く活動している姿を見ることができます。勉強や運動、仕事など何をするにも一人一人がかけがえのない大事な存在であり、全員が主役です。上条小学校の良さを須原小学校の児童に伝え、須原小学校の良さを聞き、両校の児童が協力して児童会行事を盛り上げる努力をしてください。

児童会歌は新しいものを創ろうと、上条小・須原小の児童会の代表の児童を中心に歌詞を作ったり曲作りをしました。また、保護者は上条小・須原小の同学年同士が子どもたちと一緒に活動をしてお互いを知り合おうと努力していました。このように地域・保護者・児童がお互いに相手の良さを認め合う活動を実践しています。新生「須原小学校」になってもお互いの良さを認め合い新しい学校を作っていただきたくお願いします。

最後に、「新生須原小学校」「新生須原地区」に、ご期待申し上げると共に守門地区のご発展を祈念し閉校の挨拶と致します。

### 厳粛かつ盛大に行われた閉校記念式典

11月9日(日)紅葉鮮やかな季節、中越教育事務所長、魚沼市長をはじめ192名の皆様のご臨席を賜り、上条小学校閉校記念式典が盛大に行われました。保護者や実行委員の皆様には、前日準備や当日の係分担など、多方面に渡ってご協力いただきました。おかげをもちまして無事終えることができました。この紙面を借り、改めてお礼申し上げます。

出席された方々からは異口同音、子どもたちの発表への感想の言葉が聞かれました。一人一人が上条小学校の思いを堂々と語りました。そして合唱「はじめの一步」では、これから新しい環境へ進む決意を歌に込めました。記念碑除幕式では、児童代表2名も参加して除幕を行いました。「思い出を語る会」では、和やかな雰囲気の中、上条小学校の思い出話に花を咲かせていました。

閉校事業の大きな節目を終えましたが、これからも、子どもたちにとって最善の統合を進めていくため、準備を進めていきたいと思っております。

## 閉校記念式典の様相



式辞を述べる閉校記念実行委員長

「わかくさ児童会の歌」→



紅葉の山並みをバックに行われた除幕式



記念碑前で記念撮影



草笛を披露する守門村人會會長

## ロールプレイ劇を見て話し合う

「よくある日常的場面からいじめが起きる！！こんなときどうすればいいの？」と考える劇をやりました。はじめの劇は、イライラしておもしろくない「けんじ」が、友だち二人に当たり散らし、二人は「けんじ」に腹を立て仲間はずれをする劇です。次の劇は「けんじ」が当たり散らしたところまでは同じですが、大きく深呼吸をし、自分のイライラする心を落ち着かせ、正直に自分の気持ちを伝え謝りました。二人も「どうしたの？」と声がけをして気持ちをわかりあい仲良くなる劇です。見終わった後、全校児童で劇の感想を話し合いました。

五年生は学級でもう一度振り返りをしました。イライラしたら深呼吸をする、の他に、好きなことで気を紛らわす、目をつぶる、空を見る、読書をするなどいろいろな解消法があることに気がきました。また、何より正直に謝り、自分の気持ちを伝えることが大切である。という意見がでました。

どうすれば二回目の劇のように仲良く生活できるか、いじめを生まないですむか、具体的な日常場面で考えさせたいものです。



真剣に演じる職員